

週報

こひつじ

第39巻 8号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

私とキリスト教との出会い

後藤加奈子

その一 キラキラ輝いたあの日

私は幼少期を神奈川県横浜市で過ごしました。小学二年生の時、父が仕事上の事故で突然亡くなりました。当時、母は三七歳、私は七歳、そして弟は四歳でした。

私は死の意味も死別の悲しさもよくわからないまま父を見送りました。私には死の意味も死別の悲しさもよくわからないまま父を見送りました。借りでスタートしました。その狭い部屋に父の大きな仏壇と神棚がありました。朝は父の仏壇と神棚に水と炊き立ての御飯をあげて手を合わせることに始まり、夜寝る前は必ず仏壇の父の位牌に手を合わせるという毎日でした。父の位牌に手を合わせないと夜が不安で眠れませんでした。

会社が葬式の費用を出してくれました。九州から親戚が私たちを迎えに来てくれて、私たち家族は母の故郷、福岡県の大牟田市に帰るようになりました。

手に職のない母がひとり子ども二人を育てるのは大変だったと思います。

そんな私が初めて教会に行ったのは小学四年か五年の時です。家の近くに教会がありました。立派な建物で外観も美しかったです。

ある日、私がその教会の前を歩いていると、小さな女の子から声をかけられました。髪の毛が金色でくるくるとカールしたかわいいうアメリカ人の子です。手にボールを持っていて、片言の日本語で「遊ぼう」と話しかけてくれたのです。

私はうれしくていっしょにボール遊びをしました。しばらく遊んだあと、その子は休むために私を教会の建物の中に連れて行きました。

そこには大人がたくさんいて、歌っていたのでびっくりしました。一曲が終わり、次の曲になると、今度はみんな立ち上がり、手をあげながら、さらに大きな声で歌い続けるのです。その姿がおもしろく、楽しくて私も金髪の女の子といっしょに手をあげて歌いました。歌が終わると、どこかに移動するらしく、

「今からアイスクリームを作るから、知らない人が誘ってくれませんか。」と知らない人について行ってはいけません」と学校でも家でも教えられていたのに、アイスクリームという言葉につられ、すっかりその教えを私は忘れていました。そして知らない人の車に乗ってしまったのです。しかも行き先は遠い隣の荒尾市です。ぎゅうぎゅう詰め三台の車での移動でした。やがてある一軒家に着くと、その家でアイスクリーム作りが始まりました。畳の部屋の中に入れて機械に、ひとりの人が慣れた手つきで牛乳や砂糖、氷などを入れます。大人も子どもみなその機械を囲むように座り、アイスクリームができるのを待つのです。その間、大人たちが順番に話し始めました。

「神様」「感謝」「祈り」という言葉が何回も出てきました。

一つだけ覚えているのは、「息子が受験に合格しました。神様のお陰です」という内容の話です。

小学生だった私はその話を聞いて、変なことをいう大人だな、合

格できたのはその子ががんばつて

(続)

勉強したからなのに、と心の中で
つぶやいたのを覚えています。

今日の礼拝

おいしいアイスクリームを食べ
て、数時間後に元の教会に戻りま
した。

○第一礼拝は午前10時から、
第二礼拝は午前11時から。

○教会学校は午前10時から。

○説教は米村牧師。

「またおいでね」
とやさしい声をかけられ、私は
家に帰りました。

先週の礼拝

以上が、初めて教会に行った忘
れられない日の話です。

今、考えると、金髪の女の子は、
宣教師の子どもでした。礼拝中に、
遊びたくなって教会の外に出たと
き、そこにちょうど私がいて、遊
び相手になってもらおうと思つて
声をかけたのでしよう。

○司会は林田実季さん。
○説教は米村牧師。ヨハネが記

そのあとアイスクリーム作りの
ために車で移動した家は、きつと
宣教師館だったのではないかと思
います。

○説教は米村牧師。ヨハネが記
録したイエスの最後の言葉から。
(ヨハネ一九章二六―二八)

驚くのは、イエスの最後の言葉
の一つが、母マリヤの老後を案じ
てのものだったということです。

「そこに、あなたの母がいます」
と言われると、その時から、こ
き、半日近く行方不明になった私
は、母に叱られたに違いありません
が、そのことは覚えていません。

覚えているのは、キラキラ輝いた
あの日のことです。あれから五〇
年が経ちますが、鮮明に覚えてい

このことは何を意味するでしょ
うか。イエスは、最後の瞬間まで、
ご自分に与えられた小さな義務に
忠実であられたということではな
いでしようか。

お、自分の母のことを心配し、弟
子のひとりには彼女を託されたの
です。

○三月から台湾の語学学校に入
学する徳永のぞみさんのために祈
りました。

アメリカや中国から、ぼくたちの
子どもたちが帰ってきて、とても
忙しい日々を過ごしたあと、今度
は、北海道に一〇日ほど旅をして
(それは静かな落ち着いた日々で
したけれど)、その旅から帰って
きたら、やつと一週間が過ぎたと思
つたら、もう二月です。いや、そ
れも半ばを過ぎています。月日の
たつのは何と早いものでしょうか。

○授業とは別ですが、先生ご夫
妻が帰られたあとの部屋が、すべ
てきれいに整えられていたところ
に、主に仕える者の心を学ばせて
いただきました。

授業は楽しいものでした。先週、
彼らから感想やお礼の文章が届き
ました。たとえば、こんな・・・

○テーマが毎回明確で、とても
わかりやすく、いのちに溢れた授
業でした。

○すばらしい時間、忘れられな
い時間でした。

○宝石のような言葉の数々、そ
してたくさんの愛をいただきました。

でも、若い人たちの役に立てて、
よかつたと安堵しています。